

不登校児童生徒への対応事例 2（小学校第 4 学年女子）

～ 関係機関との行動連携 ～

問題の把握

低学年の頃から、母親と一緒にないと登校できなかつたり、登校をいやがったりする傾向があったが、3年生の運動会の練習で表現運動が上手にできなかったことを理由に連続して欠席するようになった。また、登校した際でも、遅刻や早退をしたり、クラスで「友達が悪口を言われている。自分も言われていると思うと怖い。」と話し、別室にて授業を受けることもあった。さらに、基本的な生活習慣が身に付いていない面もあった。そこで「コミュニケーションが苦手である」「基本的な生活習慣が確立していない」ことを不登校要因と推定し、校内委員会を設置するとともに、関係機関との連携を図りながら取組を進めた。

対応状況

< 家庭環境 >

当該児童は母親、兄との3人で暮らして、母親は無職である。兄は、共同作業所に通所している。母親は、当該児童に対して、朝食を食べさせたり、洗顔や歯磨きなどの身だしなみを整えさせたりすることを十分に行っておらず、1か月近く風呂に入れないこともあった。

< 対応の状況 >

第3学年時

校内委員会を開催し、当該児童への対応について、話し合いの場を設けた。当該児童の状況や家庭環境を踏まえ、対人関係や生活習慣に要因があると考え、校内における支援体制づくりや関係機関との連携に努める方針を決定した。

また、町教育委員会と今後の方針について話し合い、家庭環境等の課題の整理、特別支援教育パートナーティーチャーの派遣要請など、関係機関との連携について確認した。

その後、特別支援教育パートナーティーチャーからの当該児童に対する支援についての助言を参考に、保健師と連携した家庭訪問の実施や臨床心理士への相談、当該児童と仲のよい児童との人間関係づくりなどを行った。

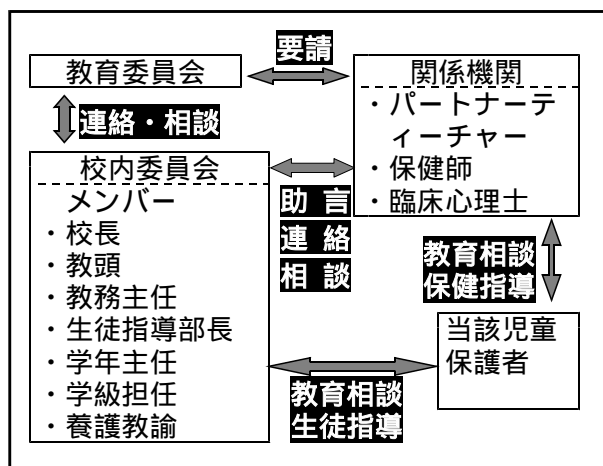
第4学年時

当該児童に対して、生活習慣を確立させるために生活リズムチェックシート等を活用し、具体的な目標を明確にして取り組めるように指導した。また、鼓笛隊の練習、運動会や学級での係活動、児童会活動等を通して、自己有用感を育むとともに、友達づくりに配慮した。

母親に対しては、保健師から食生活面を中心に保健指導を行った。

< 現在の状況 >

運動会以降は、風邪や耳鼻科への通院などの病欠を除いて欠席がなく、落ち着いた生活を送っている。8月からは遅刻もなくなり、現在は毎日元気に登校している。



不登校の問題を速やかに解消するためのポイント

- ・ 児童の状況や家庭環境についての的確に把握し、明確な指導方針を決定すること。
- ・ 町教育委員会を中心に、関係機関との連携を迅速かつ継続的に実施すること。
- ・ 校内において課題を共有し、関係機関からの助言を参考に児童に対する支援体制を確立すること。